Niigata University

図画工作科の研究

佐藤　昌弘

キーワード

鑑賞力　試しの表現活動　発想力・構想力

主　張

図画工作科では，「表現と対話しながら新たな表現をつくるという認識を創りあげる子ども」を目指した。そのために，次の2つに着目した。

① 鑑賞力を働かせて表現と対話しながら造形活動を進めること。
② 作例や仲間の表現を鑑賞したり，試しの表現活動をしたりする場を位置付け，多様な造形技能にふれるようにすること。

表現と対話しながら造形化していくと，子どもは自分の表現の可能性や課題を見出しながら，よりよい表現に向かおうとしてくる。その過程で相互鑑賞や試しの活動に取組むことで自分の表現に生かしていく造形技能は更新され，表現主題や造形化していくための発想・構想も再構成されていき，自分にとっての新たな表現が生み出されていくことが期待される。

今年度は，目指す子どもの具現に向けたカリキュラム改善の視点として，「造形遊び」と「つくりたいものをつくる」の内容を関連的に扱った単元を構成し，学期に一回ずつ重点単元として設定していくことで目指す子どもの姿に迫る。

NII-Electronic Library Service

Niigata University

Ⅰ　表現と対話しながら新たな表現をつくるという認識を創りあげる図画工作科

1．図画工作科で求める子ども

求める子ども

表現と対話しながら新たな表現をつくるという認識を創りあげる子ども

「意欲・態度」

よりよい造形表現を求め続けようとする力

「中核となる学力」

願いにふさわしい表現に向かう，発想力･構想力，造形技能

図画工作科では，表現と対話しながら新たな表現をつくるという認識を創りあげる子どもを求めていく。これは鑑賞力を働かせて表現と対話しながらつくり続け，人まねや今までの自分の持ち出しだけではない表現を生み出すことに造形活動の価値を見出す子どもである。

３年次研究では，願いをふくらませ，表現の選択肢を増やすことで，「自分ならでは」の表現を創りだそうとする姿が見られた。しかし，表現過程で立ち止まり，表現をつくり変えていこうとする態度には弱さが見られた。

表現と対話しながら新たな表現を求めてつくり続けていくためには，願いにふさわしい表現に向かう，発想力･構想力を高めるとともに，それを具現していくための造形技能を学力の中核としてはぐくむ必要がある。そして，これらの力を働かせて自分の表現をつくり変えたりつくり続けたりしていくためには，「もっとよくなりそうだから工夫していこう。」「もう少し工夫すると自分の表したいものになりそうだ。」と，よりよい造形表現を求め続けようとする意欲や態度も高まっていかなくてはならない。

今年度は，鑑賞力を働かせて表現と対話し，自分の表現のよさや課題を見出すとともに，作例や仲間の表現の鑑賞と試しの表現活動の場を位置付けた学習過程を大切にしていく。その中で，自分の表現に生かしていく造形技能を更新し，表現主題や造形化していくための発想･構想を再構成していき，新たな表現を求めつくり続けようとする姿を期待した。

2．カリキュラム改善の視点

(1)　造形遊びとつくりたいものをつくるを関連させた単元の重点化を図る

新しい表現に向かうための発想力を効果的に養うことのできる造形遊びと，表現主題と知識･技能をつなぐための構想力を効果的に養うことのできる「つくりたいものをつくる」を関連的に扱った単元を学期ごとに重点単元として位置付ける。そのことで，表現効果を確かめながらよりよい表現ができるまでつくり続けるという学び方や，自分にとっての新しい表現をつくっていこうとする構えが他の単元の中でも働きとして表れるようにする。

(2)　カリキュラムの段階性

各学年における重点単元の中で関連的に扱う造形遊びの要素と表現の内容及び，造形活動に働く鑑賞力を育むための題材の視点。

	低　学　年	中　学　年	高　学　年
表現内容	土木紙などを使った造形遊びと，遊びから思いついたことをもとに表現主題を明らかにした造形活動を関連的に扱う。	造形的な知識･技能の組み合わせを考えながら行う造形遊びと，身近な環境に働きかける造形活動を関連的に扱う。	材料や場所などの特徴や様子をもとにした造形遊びと，知識･技能を総合的に用い，伝え合う造形活動を関連的に扱う。
題材	形･色･表し方の美しさや面白さに気づくことのできる題材。	形･色･表し方の組み合わせによる美しさや面白さ感じの違いに気づくことのできる題材。	表現の意図・思い・特徴から自分の表現を見直すことのできる題材。

NII-Electronic Library Service

Niigata University

3．授業改善の方策

＜学習過程＞

＜知識・技能の習得＞	＜教師の働きかけ＞
【造形遊び】 ・材料や方法を試しながらつくる。 【つくりたいものをつくる】 ・造形遊びをもとにして，表現主題を明らかにし，表し方を構想する。 ◎表し方を考えて表現しよう。 ・材料や表現方法を選択しながらつくる。 ・作品発表会による鑑賞。	○材料を用いて造形遊びを行う場の設定 ○表現主題や構想を話し合う活動の組織 ○表現効果を検討しながら造形化していく場の設定 ○自他の表現を鑑賞し，よさや可能性を話し合う活動の組織　＜鑑賞①＞

＜知識・技能の活用＞

・鑑賞や試しづくりによって多様な造形技能にふれる。 ・表現主題を明らかにし，表し方を構想する。 ◎表現主題にふさわしい表し方を考えて表現しよう。 ・材料や表現方法を選択し，表現効果を比較しながらつくる。 造形技能の更新 表現主題の再構成　発想・構想の再構成 新たな表現	○造形遊びの作品を鑑賞したり，試しにつくったりする場の設定　＜鑑賞②＞ ○表現主題や構想を話し合う活動の組織 ○表現効果を確かめ，表し方を選択・決定しながら造形化していく場の設定 ＜鑑賞③＞

＜知識・技能を活用するよさの実感＞

・表現のよさを伝えるための方法を考える。 ◎自分の表現のよさを伝えよう。 ・表現のよさや工夫を作品解説書に表す。	○表現を伝える方法を話し合う活動の組織 ○表現と対話しながら解説書をつくる場の設定

4．評価方法

○「対話カード」「発想・構想カード」

鑑賞したときに記述する対話カードから，比較したり参照したりした他の表現の造形要素を読み取り，試しづくりをする過程や作品への用い方との関連を見て，更新された技能や，再構成された発想･構想を評価する。

○「作品解説書」

作品ができあがったら，伝えたい意図を仲間と交流するための解説書を作成する。解説の中の材料や技法の解説や，主張に表れる表現意図から，知識・技能の活用状況や，新たな意味や価値が造形的に形成されているかどうかを見取る。

NII-Electronic Library Service

Niigata University

Ⅱ　実践の概要

第５学年　「浮き出す　飛び出す　紙アート」

１．新たな表現をつくろうと，鑑賞力を働かせながら表現を練り上げていく学び

本単元では紙を主材料として用い，立体的な加工の仕方や飛び出す仕組みなどを生かした造形表現を取り上げる。紙を浮き出させたり飛び出させたりすることを追求していく過程では，紙の特性や加工法などの知識・技能を習得していく。見た人が楽しんでくれたり，考えてくれたりするようなテーマを表現主題とした造形活動によって，その具現のために習得した知識・技能をどのように活用していけばよいかという問題解決的な追求が生まれてくる。

子どもは飛び出し方のおもしろさや美しさ，意外性などの表現効果を検討しながら紙の加工法を選択・決定して造形化していく。その過程で願いにふさわしい表現に向かう発想･構想や造形技能を獲得する。さらに，鑑賞の力を働かせて表現と対話し，自分が決めた表現主題にふさわしい表わし方となるように問題解決的に飛び出す仕組みをつくる中で，自分の表現に生かしていく造形技能を更新し，表現主題や造形化していくための発想・構想を再構成してくる。このような表現は，人まねやこれまでの自分の持ち出しだけでない，新たな表現となることが期待できる。

２．単元の構想

(1)　単元の目標

紙の折り方や飛び出す仕組みの表現効果を比較しながら半立体的な表現が強調されるようにつくる中で，山折りや谷折りを組み合わせてできる浮き出す表現や，切り込みや部品の取り付け位置を変えてできる飛び出す表現を生かすとよいことに気づき，表現の意図が効果的に伝わる半立体的な表現をつくることができる。

(2)　追求の構想　（全７時間）

１次　浮き出たり飛び出したりする形を紙でつくろう

①　　・浮き出たり飛び出したりする仕組みを考えよう。

②　◎浮き出たり飛び出したりする技を使って表現してみよう。

（山折・谷折りの組み合わせ　並行折　斜め折　180°折　90°折）

２次　浮き出たり飛び出したりする仕組みを生かした表現を学校につくろう

③　紙の技を生かして，学校に浮き出たり飛び出したりするかたちをつくろう。

④　　・願いのふくらみにふさわしい表し方を選択･決定してつくる。

◎もっと自分の表したい表現になるように飛び出す仕組みを工夫してつくろう。

表現主題 ⟷ 発想・構想

⑤⑥紙の加工法や動きを試しながら，課題を解決するための方法を追求する。

３次　表現のよさを伝えよう

⑦　自分の表現のいいところを見る人に伝わるように表そう。

NII-Electronic Library Service

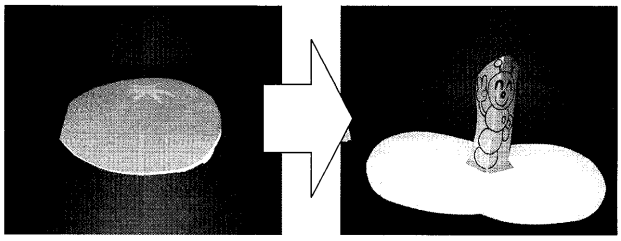
Niigata University

3．授業の実際

(1) 浮き出す，飛び出す仕組みっておもしろいな

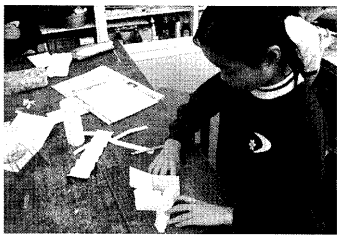
紗枝さんは，自分の経験や学んだことを関連させて，根気強く取組むことのできるよさがある。しかし，これまでの造形表現の中ではそのよさを十分に生かしきれていなかった。本単元を通して，もっと自分の表現をつくり変えることのおもしろさや価値に気づいてほしいと願った。

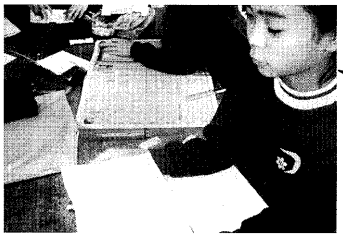
紗枝さんは初めに提示された，紙を開くと中から飛び出す作例を見て，１枚の紙からつくりだされる表現のおもしろさに関心を示し，紙を使ってどんな仕組みができるかやってみたいと意欲もってきた。



【初めに提示した飛び出す仕組みの作例】

造形遊びで紗枝さんは，紙の折り方や切り方を様々に試し，紙を斜めに折って開くと飛び出す仕組みを考えだした。できた仕組みを鑑賞し，互いのよさや工夫を話し合う中で，「発見した飛び出す仕組みを生かしてつくりたい。」と発言した。



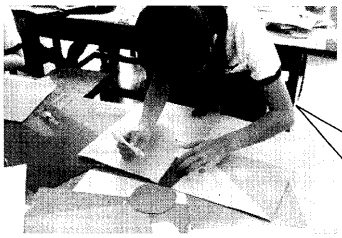


紙を斜めに折りたたんで，少し開くと山折りになっている部分が立つ感じになっておもしろいな。

(2) 自分だけの紙アートをつくってみんなに見てもらいたいな

造形遊びの中で習得してきた，浮き出したり飛び出したりする仕組みを生かしてもっと表現していきたいと意欲を高めている子どもたちと，自分の表現のよさはどのようなところなのか，さらにどのような活動をしていきたいか話し合った。発見した飛び出す仕組みを使ってもっと表現していきたいと考えてきた紗枝さんは，見た人が自然を大切にしたいと感じてくれる作品をつくりたいと願い，「つくりたいものをつくる」活動を進めることにした。

紗枝さんは，緑色の大きめの画用紙を造形遊びでつくったように斜めに折り，開く部分に木を取り付けた。その後，木の回りに切込みを入れて浮き出すようにしたり，背景の部分に浮き出す仕組みを使ったりして草や森を表現してきた。



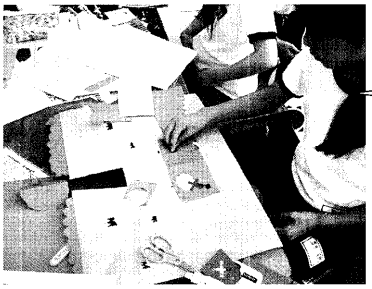
折り目のところに木を付けると，開いたときに木が起き上がるように見える。

初めにつくった，飛び出す仕組みをうまく生かせてつくれたよ。

次に，紗枝さんは空いている下の部分に緑色の台紙を取り付け，開き方を確かめ始めた。「何をしようと思っているの。」と尋ねると，「本を取り付け，開くとメッセージが表れるようにしようと思っている。」と答えた。

NII-Electronic Library Service

Niigata University



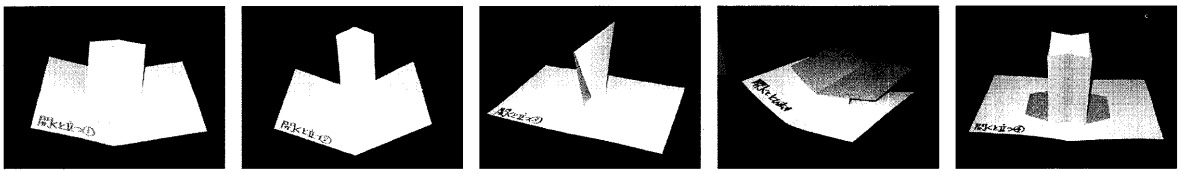
「本」にはエアコンや自動車の排気ガスによって木が枯れていく様子を表現しよう。

紗枝さんは自然保護を訴えるメッセージが表現されている「本」を，色画用紙を使って細部まで丁寧につくった。振り返りでも「本によって木を大切にしてほしいということが伝わりやすくなった。」と記し，できあがった本に満足感を示した。自然を大切にしたいと感じてくれる作品をつくりたいと願い，つくりたいものをつくる中で，紙の折り方や切り方，取り付け方などの造形技能や作品への飛び出す仕組みの使い方を習得してきた。

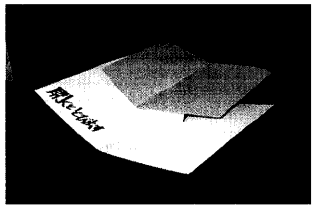
(3) 自分の表現のよさをもっと生かすにはどうしたらいいのだろう

飛び出す仕組みを使った木と，自然保護を訴える「本」ができたところで，紗枝さんの表現の願いに立ち返り，作品を見た人がどのように感じるかを考えてほしいと願って，作品との対話で振り返る場を設けた。紗枝さんは対話カードに「自分の作品は，まだ仕組みに工夫できるところがありそう」と記述してきた。しかし，構想カードには仕組みに関する具体的な記述がみられなかったので，仲間の作品を鑑賞するよう促すと，「飛び出す仕組を工夫して本の中の木をつくるともっとよくなりそう。」と発言してきた。

そこで，経験や学んだことを関連させて考えることのできる紗枝さんのよさを生かした追求となるように，造形遊びでつくった飛び出す仕組みのモデルを鑑賞したり，ミニ画用紙を用いて飛び出す仕組みを試しにつくったりする場を設定した。

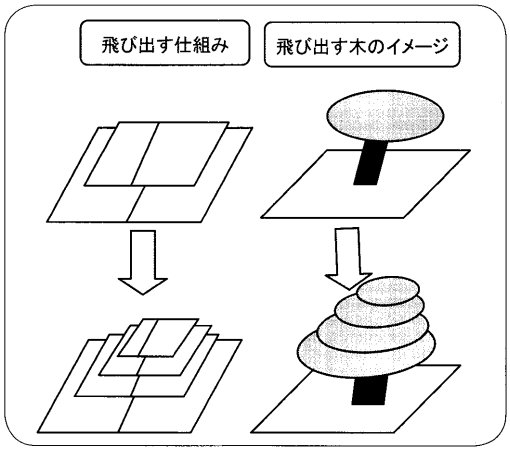


【造形遊びでつくった飛び出す仕組みのモデル】



【紗枝さんが手にした仕組み】

紗枝さんはモデルを鑑賞しに行くと，開くと平行に飛び出す仕組みを手に取った。しばらく動かした後，ミニ画用紙を手に取り自分の席に戻って同じ仕組みをつくり始めた。仕組みの切り込みの入れ方や長さなどを確かめながらつくるが思うようにつくれずこの時間は終わってしまった。



授業が終わった後にも「ミニ画用紙を持ち帰って家でつくってきてもいいですか。」と尋ねてきた。これまでの表現活動の中では自分のしたいことを強く主張することはなかったため，この姿を新しい表現に対する見通しと意欲が高まっている姿と見取った。

紗枝さんは次の時間が始まるとすぐに試しの画用紙を取りに行き，開くと平行にとび出る仕組みをつ

NII-Electronic Library Service

Niigata University

くり始めた。しばらく試行錯誤した後にとび出るようになると，さらにその上に同じ仕組みを重ねてつくり始めた。3段に開く仕組みができあがったところで，自分の表現に生かせそうになったか尋ねてみると，力強くうなずき，さらに4段目を取り付けた。その日の振り返りには「新しい仕組みが見えてきた。」と記されていた。飛び出す仕組みを試しにつくる中で，飛び出す木のイメージが平面から立体へ変わってきたのである。

開くと平行にとび出る新しい仕組みは，本の部分の木が飛び出るところに生かせそう。

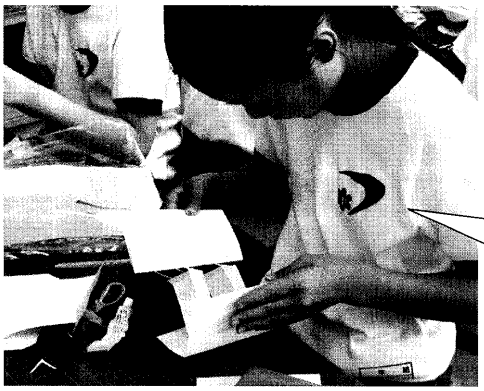
紗枝さんは試しながら，「重ねて作っている部分は木の葉の部分になりそう。」「下には支えとなる幹をつけたい。」と話した。これはモデルをもとにして造形技能の飛び出す仕組みを更新してきた姿である。

紗枝さんは，「本」の中の木の仕組みに対する見通しを明らかにすると，緑色の用紙を丸く切り始めた。特に，円の中心とそれぞれの段の間隔に気をつけながら製作が進められた。「開いたときに木の葉に当たる円の部分が真上に重なり合うようにならなければ木に見えない。」と言い，開いたときのずれを考えて一枚ずつ中心を合わせて切る位置を決めていった。

木の重なりの幅がだんだん狭くなって上に伸びる木をつくるには，切る角度や切る長さを調節してつくるとよさそう。

木の間隔については「上に行くほど徐々に狭くなったほうが木の感じが出る。」と答えた。取り付けた後も間隔が狭いと，はがしてつながりの部分を長く切ったりのりしろの角度を調節したりするなど，表現効果を確かめながら慎重につくっていった。

細かい作業であったが，紗枝さんらしい根気強い取り組みで5段目まで木ができあがった。折り目を丁寧にたたんでから開いて見ると，イメージ通りに木が上に飛び出した。隣で見ていた真衣さんが，「すごい。はじめて見た。」と歓声をあげると，沙枝さんはニッコリ微笑んだ。感想を聞くと，「立ち上がったことがよくできて，伝えたいことと飛び出す仕組みがつなげられた。」と答えた。さらに，飛び出す仕組みを幹の部分にも用いて，木の表現をよりよいものにしていきたいと願いをふくらませながら，紗枝さんは幹が立ち上がるためにふさわしい仕組みを追求し，自然の大切さがより伝わる木をつくり続けていった。



幹の部分も木と同じ仕組みを使ってつくると表せそう。でも，2つ起き上がるには長さと取り付ける角度を考えないといけない。

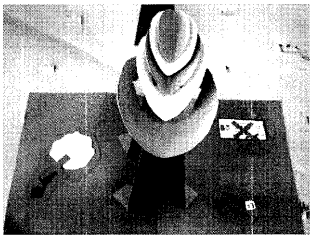
NII-Electronic Library Service

Niigata University

(4) 求めていたものを，満足できるまでつくるという図工ができたよ

2本の幹の長さや角度が決まると，上に木の部分を慎重にとりつけた沙枝さん。折り目に沿って丁寧に折りたたんでから両手でそっと開くと，木はしっかりと立ち上がり丸い木の部分もきれいに開いた。

一番苦労したのが葉っぱの部分を五段に重ねたところです。開くと木の幹が立ってそこからまた，上の葉っぱの部分が開くような仕組みにするために，考えるのもつくるのも一番がんばりました。
求めたいものを満足できるまでつくるという図工ができました。



【新しい飛び出す木】

これまで自分の表現の枠を広げて新しいものを求めることの少なかった紗枝さんが，表現と対話する中でもっと別な仕組みを使いたいと意欲をもち，どうしたらもっと木をよく表わせるだろうかと考えてきた。そして，木の表現に用いる飛び出す仕組みを更新し，「平行に飛び出す仕組みを組み合わせると，自然の大切さを伝えられる，上に飛び出す新しい木が表せる。」と表現主題と造形化するための発想･構想を再構成してきた。

このように，「造形遊び」と「つくりたいものをつくる」を関連的に扱うカリキュラム改善により，自分の表現をつくり変えることのおもしろさや価値に気づいていった紗枝さん。このような姿こそ図画工作科が求める子どもの姿であると考える。

Ⅲ　成果と課題

成果　表現過程での効果的な鑑賞力の働かせ方が明らかになってきた。

作品ができつつある状況で対話で振り返ると，さらによくなりそうだからもっとつくり続けていきたい，もう少し工夫できないだろうかと意欲を高めてくる。その後，作例や仲間の表現を鑑賞することで，新たな造形表現の視点を得て表現の見通しを明らかにしてくる。鑑賞を重ねるごとに自己評価力の高まりが見られ，表現効果などを関連させたり比較したりする見方も伸びてきた。

成果　問題解決的な学習過程に鑑賞と試しの表現活動の場を関連させて位置付けることで，造形技能が更新され，表現主題や表し方が再構成され，新たな表現に向かっていった。

表現の願いがふくらんできたときに，習得した知識･技能を鑑賞したり，試してつくったりする場を設定すると表現技法の更新が図られる。そのことで子どもは表現主題をふくらませたり様々な表現方法を関連させたりして，新たな表現をつくろうとする姿が見られた。

課題　子どもたちの表現に対する，目的意識ともたせかたを明らかにしていく。

子どもたちがつくり続けていく意欲を支えるものとして「○○のために，より伝わりやすくしよう。」という目的意識を重視した。しかし，実践では自分の表現が新たな視点からよくなりそうな見通しがもてたときに意欲の高まりをみせていた。単元での目的のもたせ方をどう設定していけばよいか明らかにしていきたい。

＜主な参考文献＞

竹内 博，長町充家，春日明夫，村田利裕編　2005「アート教育を学ぶ人のために」世界思想社
上野行一監修　2001「まなざしの共有―アメリア・アレナスの鑑賞教育に学ぶ」淡交社

NII-Electronic Library Service